

## 第22回UJNR水産増養殖専門部会 日米合同会議議事要録

第22回UJNR水産増養殖専門部会日米合同会議は、1993年8月21日（土）、8月22日（日）の両日に米国アラスカ州ホーマーの Land's End Resortホテルにおいて開催された。事務会議は8月21日（土）の午前、シンポジウムは同日午後と8月22日（日）に行われた。シンポジウムの主題は「環境中における養殖種と天然種の相互作用」であった。

米国側部会の会議企画委員長 William R. Heard（海洋漁業局アラスカ水産センター）は日米合同会議の開会を宣言した。米国側部会長 James P. McVey は開会と歓迎の挨拶を、また日本側部会長田中邦三は会議開催に対する感謝の挨拶を述べたのち、両国の部会長は出席委員と来賓ならびにオブザーバを紹介した。事務会議は日米両部会長の合同座長で進められ、書記として、米国側から Dean Parsonsと George Hoskin の両委員を、日本側から小西光一委員を指名した。シンポジウムの司会として、米国側から G. Hoskin、日本側から広瀬慶二と村井武四を指名し、承認した。

UJNR水産増養殖専門部会における両部会の各担当責任者を以下のとおり確認し、議事日程、シンポジウム議題、および現地検討会日程を異議なく承認した（別紙Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）。

	日本側	米国側
研究者の交流	淡路 雅彦	Joan Mitchell
文献交換	前田 昌調	Deborah Hanfman
共同研究	中島 員洋	James P. McVey
出版物	小西 光一	Marcia Collie

### 1. 研究者の交流

UJNRに係わる研究者の交流は1992～1993年も引続き行われ、日本側田中部会長は日本から岩田宗彦・乾靖夫（養殖研究所）および渡邊良朗（中央水産研究所）の3名が米国を訪問したことを紹介した（別紙Ⅴ）。米国側 McVey部会長は、現時点まで米国から日本を訪問した研究者はいないこと、また計画もないことを報告した。この事項については今後、日米間での関心を一層高める必要のあることが確認された。

## 2. 文献の交換

米国側 McVey部会長は163編の文献とそのリストを日本側に提出した。日本側伊藤克彦事務局長は65編の文献リストを米国側に提出し、文献は米国側に後日送付予定である旨を報告した（別紙Ⅵ、Ⅶ）。

## 3. 共同研究

米国側 McVey部会長は、米国からの海苔養殖視察団に対する日本側の協力およびヒラメの種苗生産と養殖に関する日本側からの研究情報の提供について謝意を述べた。日本側伊藤事務局長は、現時点において米国側との共同研究に関する予定のないことを報告した。今後、研究者の交流をとおして実質的な共同研究につなげるよう期待することが日米双方で確認された。

ここで、Heard 会議企画委員長は「アラスカの魚類養殖の父」と呼ばれ、今回の現地検討会の中でカチェマック湾での養殖漁場の視察に協力を得ている C. Tillion氏を紹介した。

## 4. 出版物

日本側小西委員は、これまでのプロシーディングスの出版経過の報告を行った：

- 1) 第19回合同会議のプロシーディングスの別刷りはすでに各著者に送付されたけれども、本冊はまだ日本側に送付されていない。
- 2) 第20回合同会議のプロシーディングスの本冊は、各著者および日本側に約100部が送付された。
- 3) 第21回合同会議のプロシーディングスについては、3名の著者を除くすべての原稿が米国側に送付された。また、未提出の3編の内2編はすでに受領され、残る1編もまもなく提出される予定である。

米国側 McVey部会長は第19回合同会議のプロシーディングスはすでに発送中であると応じた。

日本側田中部会長は、日本側において第21回合同会議プロシーディングスの印刷・出版が可能であるとの意向を米国側に表明した。米国側 McVey部会長は、この意向の表明に謝意を表すとともに、米国側では第21回会議プロシーディングスの原稿を校閲中であり、それが完了次第、出版のために日本への送付が可能であると述べた。印刷・出版において、コンピュータ処理作業を行う上で日米機種間でのデータ互換性に多くの問題が残されていることが、日米双方で改めて確認された。

## 5. 全体協議

日本側田中部会長は、今後の会議プロシーディングスの出版について「誰が何をするか」が重要であるので、第21回から第25回合同会議までの5か年については印刷・出版を開催国の責任で行うこと、米国側での会議プロシーディングスは従来のNOAAテクニカルレポートのシリーズによる出版を期待すること、日本側でのプロシーディングスの出版時の編集作業に米国側部会の協力を得ること、および第25回会議以降のプロシーディングスの出版方式は第24回あるいは第25回会議において協議すること、を提案した。米国側 McVey部会長は、オブザーバの Gary Edwards (U.S. Fish and Wildlife Service) からの出版経費の援助の申し出に関する情報を受け、日本側の提案に同意することを表明した。新しい出版方式の合意をうけ、第17回日米合同会議で取り交わされた出版についての合意内容の効力の失効が日米両部会で確認された。

日本側伊藤事務局長は、第20回会議プロシーディングスが従来の合意内容とは異なる方式で出版された理由について米国側に説明を求めた。米国側 McVey部会長は、当時の財政状況および出版までの時間的な制約から合意と異なる印刷・出版方式をとらざるを得なかったが、これについては米国側部会でもよい評価を得ていないことを説明し、日本側はこれを了承した。

プロシーディングス原稿の編集に関する技術的問題については、実務担当者間で協議することが日米両部会で了承された。

## 6. 次期合同会議について

日本側田中部会長は、第23回日米合同会議について、1994年10月下旬に事務会議とシンポジウムを三重県伊勢市で、サテライトシンポジウムと現地検討会を新潟地区と日光地区で開催すること、シンポジウムの主題を「さけ・ます類の増養殖とその生物学的統御」とすることを提案するとともに、日米間の水産増養殖研究の緊密な交流と発展をはかり、水産研究に対するなお一層の相互理解を深めるため、できる限り多くの方々の参加を心よりお待ちするとの期待を述べた。米国側はこの提案を了承した。

さらに現地検討会の世話機関である日本海区水産研究所の藤井徹生委員は、現地検討会への米国側関係者の来訪に対して心から歓迎の意を表し、ヒラメ養殖施設や日本で最古のサケふ化施設などを視察する機会のあることを紹介した。

米国側 McVey部会長は、1995年の第24回合同会議は米国テキサス州コーパス・クリスティでの開催を予定していることを述べた。

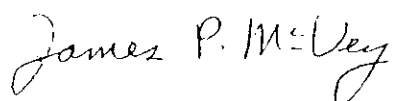
## 7. その他

Heard 会議企画委員長は、シンポジウムと現地検討会の開催日程およびその他の連絡事項について総括的な説明を行った。

田中日本側部会長と McVey米国側部会長は事務会議のために準備したすべての議事が終了したことを確認し、第22回日米合同事務会議の閉会を宣言した。

Land's End Resort ホテル

1993年8月22日



ジェームス P. マクベイ  
米国側部会長



田中 邦三  
日本側部会長